

2008.06.25 (水) 18:00

大阪大学医学部附属病院
外来棟 4階 第1カンファレンス室

第40回未来医療セミナー

癌研究を通して見るこれからの臨床研究

大阪大学大学院医学系研究科外科学講座 消化器外科 教授

森 正樹 先生

私は外科医として癌診療に関わりながら癌研究を行っている。われわれが行っている研究は臨床展開できることを第一の目標にしているが、今回は幾つかの研究を紹介して、近未来の医療を論じたい。

- (1) 自己脂肪細胞由来幹細胞を用いた再生医療：患者さんのお腹から採取した脂肪から幹細胞を採取し、それを乳癌温存手術後の残存乳房変形の修復や難治性消化管瘻孔の治療に用いている。現在までに乳癌 10 例、瘻孔 1 例に行ったので、具体的な点について紹介する。
- (2) 日本人大腸癌の特徴を明らかにするために、多施設共同による臨床研究を行っている(CRESTとして進行中)。大腸癌 2000 例、対照 3000 例について、疫学調査、遺伝子多型検査、腫瘍の遺伝子学的検査を行い、俯瞰的に日本人大腸癌の特徴を明らかにする試みである。今後このような大規模研究が多く行われる時代になると推察されるため、紹介する。
- (3) 進行癌は未だに難治であるものが少なくない。抗癌剤の効果が一時的なことは日常的に経験することである。難治性の原因として癌幹細胞の存在がクローズアップされている。われわれの消化器癌幹細胞の研究を紹介し、今後の癌研究の一つの指標を示したい。

これからの臨床研究は実際の臨床への展開を今まで以上に重視する必要がある。近未来には今以上に良い医療を提供できるようにがんばりたい。

連絡先：未来医療交流会（大阪大学医学部附属病院未来医療センター内）

Tel: 06-6879-6557/6551, Fax:06-6879-6538

E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

<http://www.hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp/>

協賛：21世紀COE「細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成」

- Center for Integrated Cell and Tissue Regulation -